

看護学生と薬学生の夏のハンガリー研修を終えて

薬学部 医療薬学科 2年 U.O.

私が1ヶ月のハンガリー研修で学んだことは大きく分けて救急医療、医療従事者の役割、そして、ハンガリーの歴史の3つです。

1つ目の救急医療では、トリアージの現場から治療を施す流れ、実際の検査や治療や投薬を学びました。そのトリアージ1つでも災害時と病院に運び込まれた時の病院トリアージは違うこと、日本は地震や台風での災害が多いため、災害時のトリアージを知る人が多く、病院でのトリアージにはあまり馴染みがないと一緒に参加していたメンバーから教えてくれました。また、日本ではカナディアントリアージ (CTAS) をもとにしたJTASがあることも知りました。それらを活用して全員を救うことと確実に素早い治療が施されるために行っていました。

2つ目医療従事者の役割では、大部分は日本人とあまり変わらないように感じました。ハンガリーにも医師、看護師、そして、薬剤師とそれぞれの役割があります。異なる点を挙げるとするならば、それぞれの区別が日本に比べて低くチーム医療が進んでる点と看護師の仕事の幅が広い点です。これらは薬剤師を目指している私としても印象に残ることが多いかったです。

3つ目ハンガリーの歴史では、現代の形式に基づいている原因を知ることができました。島国である日本とは異なり他国との関わりが多いハンガリーは周辺国の社会情勢によって経済や環境が変わることが多かったことを印象に受けました。例えば、ハンガリーは中央ヨーロッパでありながらユーロではなくフォリントという単位を用いた独自のお金を使っている点などが挙げられます。

以上、3つの面で1ヶ月にわたり現地で学んだり観察したりすることができました。とても有意義な時間を過ごせたと感じています。今後の日本の医療現場をさらに良くする医療従事者になるための経験になりました。

略語

CTAS: Canadian Triage and acuity scale

JTAS: Japan triage and acuity scale



写真2. 国会議事堂の構造

写真1. センテンドレ



写真3-4.
建国記念式典の様子（2022年8月20日）

